

## 令和7年度 第2回 学校運営協議会(定時制部会) 議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	渋川 雅宏

開催日時	令和7年11月13日(木) 17:00~19:00
開催場所	大阪府立大手前高等学校 会議室
出席者(委員)	平野 智之、高木 学、佐藤 道廣、平田 圭介、堀 剛士
出席者(学校)	渋川 雅宏、石野 靖、神原 優希、矢野 直子
傍聴者	なし
協議資料	令和8年度 使用教科用図書の採択について 令和7年度 第1回授業アンケート集計結果
備考	なし

## 議題等(次第順)

- 1 令和8年度 教科書採択について
- 2 第1回授業アンケート集計結果
- 3 授業見学について
- 4 現在の本校の様子・取組み等
- 5 その他

## 協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 1 令和8年度 教科書採択について  
特に委員から意見等はなし。
- 2 第1回授業アンケート集計結果について  
(委員からの意見等について)
  - ・貴校が長年頑張って取り組んできたことが、このような数値に現れ努力が実ってきたと感じている。
  - ・7番目の質問項目に、「教員は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善にいかしている」か、という問いがある。どのような意見や要望があったのか、あれば教えてほしい。

→授業アンケートの生徒の回答では、意見や要望の記述はなかった。これまでの授業等での生徒から意見や要望があったので、その一部を紹介する。

授業の中で、外国籍の生徒から「ルビを打ってほしい」、「もっと大きな字で書いてほしい」、「テスト対策プリントが欲しい」といった要望があり、適切に対応してきた

と思っている。

- ・小さなことであっても、適切に対応されているとのこと。嬉しく感じる。
- ・授業中の生徒個々の気持ちや心の状態は見えない。したがって評価として数値に現れないものもあると感じた。
- ・仮に17人中16人が回答したアンケートがあったとして、16人が満点の5を付け、1人が4を付けたとすると、5段階の平均は4.94となる。ここからさらに向上させようとする、とてもしんどい。  
そこで、視点を変えて、5をめざすには、4をつけた人をよく観察し、直接聞いていくようにしないと本当によくならないのではないかと思う。  
よって、2人の委員から質問や意見があったように、7番目の質問項目では、どんな意見や要望がでてきているのかということへのアプローチのほうが大事だと思うし、心の部分の評価として、優しさを1点や2点にするなど、そのように見ていけたらよいと思う。
- ・アンケートの手法には、量的調査と質的調査があり、前者は、数値データを集め、統計的に分析することで事象を明らかにしようとする方法で、後者は、直接聞くことや観察を通して、人の行動や意識を理解しようとする方法である。授業アンケートでは文章で回答する欄もあるが、文章での回答がなかったということで、各委員は、数値から背景を推測して、今意見があったと思う。
- ・今年度は、日本語のチームも作られたようなので、もう少し詳しく説明をお願いしたい。

→今年度は、外国にルーツのある生徒支援チーム（4つのグループ）を発足させた。

1つ目は、「進路指導グループ」で、渡日生徒対象進路説明会、CC（キャリア教育コーディネーター）や企業との連携、合同企業説明会への参加、ビジネスマナーの指導を担当するグループ。

2つ目は、「日本語支援グループ」で、いきいきの授業や0限目の授業の工夫、日本語授業担当者との学期ごとに課題整理・情報共有、JLPT合格に向けた支援をするグループ。

3つ目は、「外部スタッフ担当グループ」で、外部人材（いわゆる教育サポーター、学習支援スタッフ）の活用と日本語能力診断テストをサポートするグループ。

4つ目は、「指導力向上グループ」で、日本で生活するうえで必要な一般教養の指導や、教員力の向上ということで関連研修への参加・伝達講習の実施、安全で安心な学校づくり・WaiWaiトークへの参加といった支援グループ。これらは、4月から走り出したところである。

補足として、日本語の授業で、大阪府から非常勤講師時数の配当をいただいているが、指導できる人はこちらで探さないといけない。その中で、今大学院生で日本語を指導、勉強をしていて、かつ、教育免許を持っている人は2人いる。引き続き指導で

きる後輩をお願いしているところであり、継続的に大学と連携していきたいと考えている。

- ・教員が授業づくり等で困ったことや課題を感じてこう変わったというような具体的な事例はあるか？

→本校に在籍するネパールにルーツのある生徒の中には、ネパール語の文字が読めずネパール語での会話しかできない生徒、ネパール語は話せないが英語が話せる生徒、ネパールの文字しか読めない生徒がおり、多様な支援ニーズのある生徒への対応に苦慮している。

例えば、教員が生徒の状況に応じてネパール語や英語に変換した資料を作成するには時間と労力が伴うが、それでもあまり学習がままならないため、資料は簡単な内容にして配付することや、やさしい日本語で説明を試みるなど、試行錯誤している。しかしながら「元の資料の内容と異なっているのでかえって覚えにくい」とのネパール生徒からの意見もあった。

- ・ネパール以外に言語的にはどのような国があり、それぞれで困ったことはあるか？

→ネパール以外は、インドネシア、フィリピン、中国である。共通して言えることは、日本語での会話より、日本語での学習のほうが難しいようである。考査時には、日本語の問いの意味がわからない、答えがわかっているにもかかわらず書けないケースがあった。

- ・定時制のメリットとして、生徒の中には年齢の高い生徒もおり、その生徒の人生経験談から学ぶことができたり、授業中にわからないことがあったときに、年齢の高いものどうしで会話を通して学習を補い合うことができたりする良い面があると思う。このように数字には表れない良い部分が定時制にはあると思う。

- ・家庭科の欄を見ると、昨年度から今年度前半にかけて、授業のアンケート結果が、昨年度の前半は2.94で、その時はとても気になったが、後半では3.44にアップし少し安堵した。今年度前半では、3.86とさらに上昇している。ホップ、ステップ、ジャンプといえる右上がりの傾向にある。これについて何かコメントがあればお願いしたい。

→学校全体の8割近くの授業は手厚くTTで取り組んでいる部分と、昨年度と今年度の1年次を担当する同じ教員であるので、アンケート結果を受け止めて授業改善をしていっている部分が要因となって表れているのではないかと考えている。

- ・この数値は、その教員に対する評価というよりは、学校としての評価としてみているのだろうと思う。

### 3 授業見学について

(委員からの意見等について)

- ・少人数での授業で複数の教員が入っており身近に感じ取り組んでいたところと高度な内容の授業に取り組んでいたところに感動した。

- ・高齢者と若者が一緒に学んでいるところや、学力の違いに関係なく教員や支援員がサポートしてくれていたこと感動した。
- ・老若男女を問わず、学習到達目標に向かって頑張っている姿が印象的だった。
- ・教員が友達のように接する姿に、生徒への親近感を覚えた。
- ・委員から「数学や化学はなぜ…」という思いもあるかもしれない。今回見学した授業では、数値を身近なものやお金などに置き換えて、「自分にとって学習内容は何なのか」というところをうまく変換されていると思った。
- ・外国に行って社会科の内容を学ぶことや自分の立場や今の生活に関連させて学ぶことも大事であり、ねらいを理解して学習することも大事である。
- ・黒板に投影する際にどのような色を使うのが良いのか。昨日見学した学校での色使いはピンク色であり、本日見学した授業では、緑色を使用していた。個人的には緑色が見やすかったように思った。したがって、授業においては、見やすさや視覚ということが大事であると思う。
- ・高齢者がいる場合は、ゆっくり話していたことが印象的で、他の授業でも参考となると思う。

#### 4 現在の本校の様子・取組み等

(委員からの意見等)

特に委員から意見等はなし。

次回の会議日程	
日時	令和8年2月20日(金) 15:00~16:00(予定)
会場	大阪府立大手前高等学校 1階会議室